

岡山県津山市椿高下
津山高校 図書部
TEL 22-2204
印刷部 津山市朝日町
TEL 22-3135
印刷所 津山市朝日町

図書部の おすすめ



傾いた世界

筒井康隆・著

この本は筒井康隆の才能が良くも悪くも出ています。その中でもタイトルにもなっている傾いた世界は筒井康隆が得意とするSFものになっています。海の上の都市マリンスティで繰り広げられる登場人物たちのシリアスな会話、個人のエゴによって破綻していくマリンスティ、そして女性上位主義者のマリンスティ市長はいったいどうなってしまうのか？ そんな読者をまったく退屈させない内容となっています。

この作品も筒井色がとても強く出ており、見る人を選ぶ作品になっております。しかし、さすが映画化も数多くされている有名作家ということもあって悪のある作品であることは確かですが、それを差し引いても魅力ある本となっています。日常と

狂気の合わさった筒井康隆の作品をあなたも味わってはいかがですか？

きつねのつき

北野勇作・著

主人公の「私」は、幼い娘の春子と、天井にはりついた妻との3人暮らし。娘の成長を喜び、卒乳を心配して、保育園選びに思案する。「私」と春子のささやかな日常が流れていく中、得体の知れない怖さが垣間見える。

「私」の住む町では3年前、人工巨大人の暴走があり、町ごと飲み込まれてしまった。人工巨大人はそのまま倒れこみ、その上に土をかぶせて台地が作られ、町の周りには高い塀が設置されて外の世界と隔離された。組織の都合に巻き込まれ、何も知らされないまま「人ならざるヒト」となった住民はその町で暮らす。外から来る人が防護服をまとうようになったその町で。

物語を読み進めていくうちに感じる妙な違和感は、作中でははっきりと明かされることはない。そこが行き場のない不安を抱かせる。「私」と春子を取り巻く、子供園の先生や友達、近所の人の満たされた閉塞。「私」が願うのはただ、親

子三人で静かに暮らすことだけ。311の世に送る、切ない物語です。

思わず話したくなる「深海魚」のふしぎ

クリエティブ・スイート・編

今日の科学の力をもってしても、いまだ謎の多い深海の世界。そこには私たちが普段見ているものとはまったく違った姿をした生き物が住んでいることを、あなたは知っているでしょうか。皆さんもよく知っているチョウアンコンウをはじめ、熱湯の中で暮らすカニ、地球最大の無脊椎動物、大きすぎて口に収納できないキバをもつ魚などなど。この本は、そんなたくさんの不思議な生き物たちを、ユーモラスな視点で表情豊かに紹介しています。

私がこの本を面白いと思った理由のひとつは、そのユーモラスな紹介文にあります。例えば、ある魚の攻撃方法を「クッキーの型抜きのように」としていたり、エサの魚を丸呑みすることを「人間が3メートルあるイルカを丸呑みするようなもの」としていたり、身近なものでたとえられていることが多いのです。それでいてインパクトもあるのです。思わず想像してしまいます。深海に興味がある人もそうでない人も、いち

ど手にとってみてはどうでしょう。深海ってこんなに面白いのか！と思えるような、新しい発見があるかもしれませんよ。

不思議ないきもの ウミウシ

今本 淳・著

今本淳さんが撮影した、日本で初めてのウミウシの写真集です。その色鮮やかさ、美しさから「海の宝石」とも呼ばれるウミウシは、見ているだけで癒されます。

この写真集では、奄美大島で撮影された約100種のウミウシがオールカラーで紹介されています。ウミウシのサイズや原寸大のシルエットを記載したページや、ウミウシのことや奄美大島のことを紹介したコラムのページもあり、ウミウシを知らない人でも楽しめる内容になっています。私もウミウシのことはよく知らなかったのですが、表紙の写真があまりにも綺麗だったので、思わずこの写真集を購入してしまいました。コラムのページを読んで、「ウミウシって巻貝の仲間なんだー」「ウミウシってこんなに小さいんだー」と驚いたり、感動したり。でも、なんといつでもこの写真集の魅力は、一つとして同じ形、模様のないウミウシたちだと思えます。初めはウミウシを知らなかった私も、ページをめくるたびに、小さくて、綺麗で、可愛い彼らに癒されて、見終わるころには、すっかりウミウシに夢中になっていました。

そんなウミウシの魅力を、多くの人に知ってもらいたいので、是非一度、手にとってみて下さい。

ジエノサイド

高野和明・著

今年、数々の雑誌で取り上げられ、多くの作家・書評家を魅了した作品がある。世界水準の超弩級エンターテインメント小説と賞賛された本書「ジエノサイド」は、読書界を熱狂させ、全国の書店から絶賛の声が相次いで届くという。この作品に出会えた以上、今年読む本はもう全部ハズレでもいいという声もあつたほど人々の心を虜にした珠玉の一冊である。

物語の主人公となるのは、古賀研人という薬学部の大学生である。ある日、研人は研究者の父親が急死したの知らされる。しかし、その後死んだはずの父親から謎のメールが届く。父親から送られてきた謎のメールによって、研人は思いもよらぬ事態へと巻き込まれてゆく。しだいに明らかになる父の研究内容とは……。

同じ頃アメリカでは、傭兵のジョナサン・イエーガーが不治の病で苦しむ息子を救う資金を稼ぐため、ホワイトハウス主動の暗殺計画を引き受ける。計画内容は、アフリカのゴングのある部族に蔓延した致死性の高いウイルスを部族もとも始末しろというものだった。しかし、この計画の目的は他にあった。ホワイトハウスが命じた暗殺計画の表にいつたい何が隠されているのか。そして、暗殺計画の本当の目的とは？
—東京とアフリカ。交わるはずのない二人の人生が交錯する時、驚愕の事実が明らかになる。それは、アメリカの情報機関が察知した人類滅亡の危機—

きみが見つける物語 十代のための新名作

このアンソロジーシリーズは、本を読みたいけどなにを読めばいいのかわからないという人にお勧めです。短編なので基本的にサクサク読めるし、もしその中から気に入った作家がいればその人の作品を読んでみようという気になると思います。この本をきっかけに、少しでも本を読む人が増えてくれればいいな、と思います。

【放課後編】橋本紡 浅田次郎
石田衣良 星新一 宮部みゆき

学校から一歩足を踏み出せば、そこには日常のささやかな謎や冒険が待ち受けていた！？いま旬の作家が集結、彼らが描いたそれぞれの「放課後」のカチとは？

【スクール編】あさのあつこ 恩田陸 加納朋子 北村薫 豊島三由 はやみねかおる 村上春樹

小説には、世界を変える力がある。日常を輝かせる鍵がある。心にそっとよりそう友達にも、道をそっと照らす灯りにもなる。

【休日編】角田光代 恒川光太郎 万城目学 森絵都 米澤穂信

とびつかりの解放感で校門を飛び出す。この瞬間だけは、学校のこと嫌な奴のこと、宿題のこととも忘れて。旬の作家が集結、それぞれが紡いだ休日の大冒険とは？

【友情編】坂本司 佐藤多佳子 重松清 朱川湊人 吉本ばなな

ちよつとしたきつかけでぐつと近づいたり、もう顔も見たくないってほど嫌いになったり。ともだち、親友、それともライバル？ 旬の作家が集結、それぞれが描いた、かけがえのない友情の形とは？

【恋愛編】有川浩 乙一 梨屋ア

リ工 東野圭吾 山田悠介

はじめて味わう胸の高鳴り、つないだ手。甘くて苦かった初恋。一晩じゅう泣き明かした失恋でさえもいつかたいせつにしまっておきたい思い出になる…。旬の作家が集結、それぞれが描いた恋の物語とは？

【こわい話編】赤川次郎 江戸川乱歩 乙一 雀野日名子 高橋克彦 山田悠介

放課後誰もいなくなった教室、夜中の肝試し。またたく間にクラス中に広がった都市伝説や怪談。遊びのつもりが追い込まれて本気になったデスゲーム…。人気作家が集結、それぞれが描いた恐怖の物語とは？

【不思議な話編】いしいしんじ 大崎梢 宗田理 筒井康隆 三崎亜記

いつもの通学路にも、寄り道先の本屋さんにも、見渡してみればきつと「不思議」が隠れてる。さあ、ミステリアスなできごとに出会う、そんな旅に出かけよう！ 旬の作家が終結、それぞれが描いた不思議な物語とは？

【切ない話編】小川洋子 萩原浩 加納朋子 川島誠 滋賀直哉 山本幸久

たとえば、誰かを好きになったとき。コロコロがぎゅつと締めつけられるように痛むのは、いったいどうしてなんだろう——？ いまこそ読みた作家が集結、それぞれが描いた切ない物語とは？

【オトナの物語】大崎善生 奥田英朗 原田宗典 森絵都 山本文緒

笑って、泣いて、怒って、泣いて。恋をして、失恋をして。本を読んだり、たいせつな存在と出会ったり。さまざまな経験が、きみをやがて大人にするのです。大人になったきみの姿がみつかる、がんばる大人の物語。

読書感想文紹介

美作地区 高校生
読後感想文コンクール

最優秀賞

「世界がもし100人の村だったら」を読んで

岡山県立津山高等学校
二年 中西 文香

人はその事を意識しないで生きていく。同じ地球に生きる人間なのになぜ私たちは彼らに心を傾けないのだろうか。

私たちは「失う」事が怖いのだ。私たちに一生の幸せは保証されていない。裕福になればなる程、失うことが「恐怖」となる。恐怖を消し去りたい、見たくない。その思いが、貧しい人に対して心を閉ざさせる。

だが、この本に書かれていたのは世界の人口を百人にした場合、恵まれている人はほんの少数であるということ事実だった。

この本は、誰かに思われること、文字が読めること、そして今を生きていること、これが当たり前だと思える自分の豊かさ、飢餓に苦しむ人の存在に目を閉じてきた自分の愚かさを教えてくれた。自分の幸せのためだけに生きる毎日は多くの人の苦しみや悲しみの上に成り立つものであり、とても幸せとは呼べない。物質的な豊かさ引き換えに私たちは今、心の豊かさを失いつつある。

現実を知り、受け入れること。そしてみんなが幸せに暮らせる未来を描くこと。これが私たちが成すべきことである。今、この瞬間も多くの苦しみがあることを知り、その上に私たちが生きていることを受け入れる。そうすればこの本が語ったように、自分だけでなく他人や世界を思うことができるだろう。

心の豊かさを維持するために、まず私は「ぬくもり」を大切にしたい。人間は生き物の中で最も高い知能やたくさんの感情を持つ。そして、社会は常に発展を続けている。その裏には人と人とを繋ぐ「ぬくもり」があることを忘れてはならない。祖母から味噌汁の隠し味を教えてもらったこと。母と夜空を眺めること。日々の暮らしの中にはたくさんのぬくもりが溢れている。発展した社会、忙しい毎日の中に埋もれてしまったぬくもりを、豊かさを求めるあまりに手放してしまつたぬくもりを、私は改めて見つけ出し、感じて、生きていかねばならない。

「今いるところが、こよなく大切だと思えますか？」という問いに誰もが笑顔で「イエス」と答えられる世の中になることを願ひ、私は現実をきちんと受け止め、様々な人や物を素直に愛せる心の大きな大人になりたい。



優秀作品

『ワクちゃん』を読んで

岡山県立津山高等学校

二年 高田 千尋

自分の長所を挙げよと言われて、果たして何個言えるだろう。私はこの質問をされて困った経験が何度もある。自分のいい所って、簡単に出てくるものではない。では反対に、悪い所は、自分の短所を言えと言われたら、何個言えるだろう。「ワクちゃん」は注射一本で患者の欠点を治してしまおうという不思議な物語だ。物語の舞台となる病院にはたった二人しか働いていない。父親から病院を継いだ医師のルナと孫を溺愛する看護師の月子だ。ちなみに二人の会話の大部分は、月子の孫の亮ちゃんに占められている。さて、治療する所が短所と変わっているだけに、診察も変わっている。脳内記憶断片視覚装置、通称のぞき二号という少々趣味な名前前の装置によって、患者の過去の記憶がスクリーンに映し出される。ルナはその記憶を元の一つ一つ手作りでワクちゃんを作っている。それを患者に注射すると、患者の短所は百パーセント完治してしまうのだ。正に夢のようなワクちゃんなのだ。ルナは注射をする前に必ず患者にこう言う。「性格は治りませんが、それがあなたにとって最善とは

言い切れません。それでも、打ちますか。」と。

自分の短所がなくなるのに、どうして最善じゃないのだろう、と私は思った。こんなワクちゃんがあったら私は迷わず飛びつくだろう。まずは、マイナス思考を治すワクちゃん。私は物事を悪い方にしか考えられなくて、失敗したら、間違えたらどうしようと考えて、行動に移せないということがよくあるからだ。次は優柔不断を治す。選択が苦手な私は、マイナス思考も手伝って「こっちを選んでもし悪い結果になら……。」などと考えてバツと選べないのだ。だから、大学や将来の職業を選択するのなんて、どっちの消しゴムを買おう、で悩む私からすると、途方もない選択だ。他にもあがり症、心配症、人見知り。治したい所はたくさんある。私にはワクちゃんを打つことは最善とは思えない。短所がなくなれば、思い通りの自分になって明るい未来が待っているのではないか。私と同じ様考えた患者は皆、ルナにワクちゃんを打ってもらった。だが、待っていたのは明るい未来などでない。皆、自分の短所を失うことで自己までも失い、家庭崩壊、事故、犯罪などに巻き込まれてしまうのだ。最後まで読み、短所をなくすことが全てではないということがわかった。ワクちゃんを打てば、私の短所は全てなくなるだろう。でもそれと同時に私の個性までなくなってしまう

のだ。今の私は、過去の経験によって成り立っている。いい所も悪いところも全部、私の経験の賜だ。そして、今私が経験していることは未来の自分を形作っているのだ。今私が苦しみ、悲しみ、悩んでいることに、無駄なことは一つもない。過去の自分は変えられないけど、未来の自分は今の自分によっていくらでも変えられると言っているワクちゃんに教えられた。未来の自分に笑顔でいてほしいから、今、私は笑顔でいようと思う。

佳作作品

『天国の五人』を読んで

岡山県立津山高等学校

一年 溝口 幸奈

「無駄な人生なんてひとつもない」ブルーマンのこの言葉は、この夏、私が大切にしてきたある言葉と似ていた。

私は吹奏楽部に所属し、今年の夏もコンクールに挑んだ。中学校時代と比べて周囲のレベルは高く、何度練習しても上手くいかない箇所が苦しい。それでも、私が決して練習することを諦めなかったのは、「努力はウソをつかない」、「つまり」無駄な努力なんてひとつもない」という言葉が心の支えとなっているから

だと思ふ。この本の中で、このブルーマンの言葉に出会ったとき、一見無駄だと思われることでも、必ず意味がある、ということとは、「努力」というものだけではなく、「人生」にも言えるのだということを実感した。「努力」と「人生」という、日々の生活の中ではあまりつながりを感じない二つのものに、私はつながりを見出すことができた。エディが天国で出会った五人のうち、「なぜ自分はこの人と出会ったのだろうか」と思う人物もいた。そして、「天国で出会う五人に何を教わるのか」というエディの疑問に、ブルーマンは、「我々はみんなつながっていることを。ひとりひとりの人生を切り離すことはできないということ」と答えた。人は皆、多くの人と助け合い、影響をおよぼし合っていて生きている。そうしてきたからこそ、今の自分があるのだ。だから、自分を大切にすることは、他の人を大切にするにもなると思う。

「時には貴重なものを犠牲にすることもあるが、ただ失うってわけじゃない。ほかの誰かに譲ってやるだけだ。」と大尉は言った。私はこの言葉に胸をつかれた。今まで、自分の大切なものを犠牲にする勇氣など、私には無かったと思う。そのように大きなものでなくても、身近でささいなものを他人に譲れる精神が大切だろう。お年寄りに席を譲ったり、募金に協力したり……。それら

が「他の人を大切にすること」につながると思う。他の人を大切に、他の人のために生きることができたら、その人生は無駄ではない。エディは、働いていたピアという場所に、最後に辿り着いた。そこでやっと、自分がピアに遊びに来る子ども達の笑顔を守るために生きていたと気づくのである。エディは自分の人生が価値のあるものだったと天国の五人に教わった。本当の天国がどのような所なのかは分からないが、私にとっても、大切なことを教えてくれる場所であってほしい。

人生は、人によってそれぞれ異なる。同じ人生など存在しない。だから、私らしい、充実した人生を歩んでいきたい。エディのように、競争で足が不自由になるような困難も、きつと待ち受けているだろう。そのようなときでも、譲り合いや助け合いの気持ちを忘れず、乗り越えてみせる。「価値のある」人生を送るために。



風早の街に、夕暮れになると現れるふしぎな

『コンビニたそがれ堂』（村山早紀著・ポプラ社）

大事な探し物がある人は、そこで必ず見つけれられるといえます。温かいおでんとお稲荷さんと銀髪のお兄さんが優しく出迎えてくれる、心地よい物語です。

『お茶が運ばれてくるまでに』（時雨沢恵一著・アスキーメディアワークス）

この本は短編集になっていて、あたたかい気持ちになるものから、何か考えさせられるようなものまでさまざまなお話がのっています。ひとつひとつのお話が短いので、忙しい人や長い話を読むのが苦手という人にも読みやすいのではないのでしょうか。お茶が運ばれてくるまでのちょっとした時間にも、ぜひ手にとってみてください。

『泳ぐのに、安全でも適切でもありません』（江國香織著・集英社）

安全でも適切でもない人生の中で生きる女性たちの物語。それぞれが自分の人生をしっかりと生きている姿がすばらしいと思う。

『お伽草紙』（太宰治著・新潮社ほか）

昔話のかちかち山や浦島太郎、井原西鶴の諸国断などの古典や民話をベースに、太宰治が自由に想像力を膨らませた作品集。「太宰って難しそう…」と敬遠していた人にもおすすめの、読みやすくて面白い本です。

『羅生門・鼻・芋粥』（芥川龍之介著・角川書店）

昔、六寸もの長い鼻をもつ僧がいた。人々は彼の鼻をからかっていたが、ある時僧は鼻を短くする方法を知り、鼻を短くすることに成功する。しかし、鼻が短くなったことで一層笑われるようになってしまう。

『パンダ誘致論』に『高知まるごとレジャー化計画』、お役所仕事と民間感覚の狭間で、観光立県を目指してがんばれ掛水！
ふるさとに恋する観光小説

『県庁おもてなし課』（有川浩著・角川書店）、読めばきっと元気になります。

『GOTH—リストカット事件』（乙一著・角川書店）

森野が拾ってきたのは、連続殺人鬼の日記だった。学校の図書館で僕は、次の土曜日の午後、まだ発見されていない被害者の死体を見物に行くことを決めた…。触れれば切れるようなセンシティブ・ミステリー。

『イン・ザ・プール』（奥田英朗著・文芸春秋）

この物語は、風変わりな精神科医・伊良部がさまざまな方法で患者たちを治療していくお話です。プール依存症、妄想癖、強迫神経症…。伊良部の暴走治療に患者たちは呆れるばかり。無事に病気は治るのでしょうか。

『ボクは坊さん』（白川密成著・ミシマ社）

初めての散発（坊さん用バリカン購入）、坊さんの坊さんによる野球大会の鮮烈なシーン、亡くなった長老を見送ったことなど、笑いあり、涙ありの、若い坊さんの青春の日々が書かれていて、おもしろいです。

『サークル・オブ・マジック』

（デブラ ドイル、ジェイムズ・D. マクドナルド著・小学館）

ある日魔法に魅せられ、魔法使いになろうと魔法学校に入学したランドル少年。そこで学ぶ「サークル・オブ・マジック」とは？



図書館 支援学生 交流会

in
高専

図書部の活動内容、十六夜祭での古本市や店頭選択、今後の予定などを報告しました。

11月26日、津山工業高等専門学校にて、図書館支援学生交流会がありました。

我が校からは図書部の3人が参加し、高専や美作大学の方たちと、互いの活動について報告しあいました。



活動報告



交流会

互いの学校の活動内容を話したり、おかしを食べたりして交流を深めました。

感想

- 読書会など、自分たちのしていない活動をしているところがあり、とても参考になった。(肖)
- 人に反応して閲覧室の電気が点くなんて、津校では考えられない設備だった。(亜入)
- 問題集もたくさんあって、勉強できる環境が整っていると思った。あと、しっとりクッキーがおいしかった。(ぴ1)

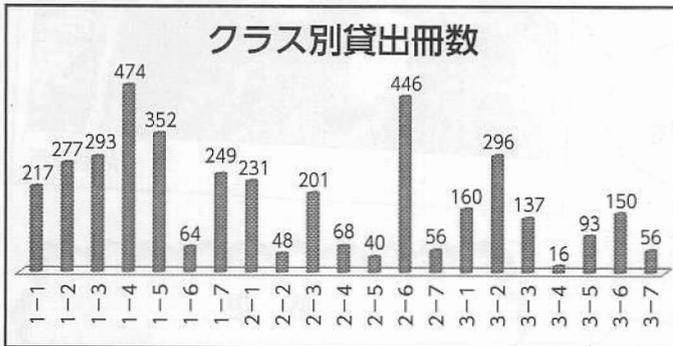
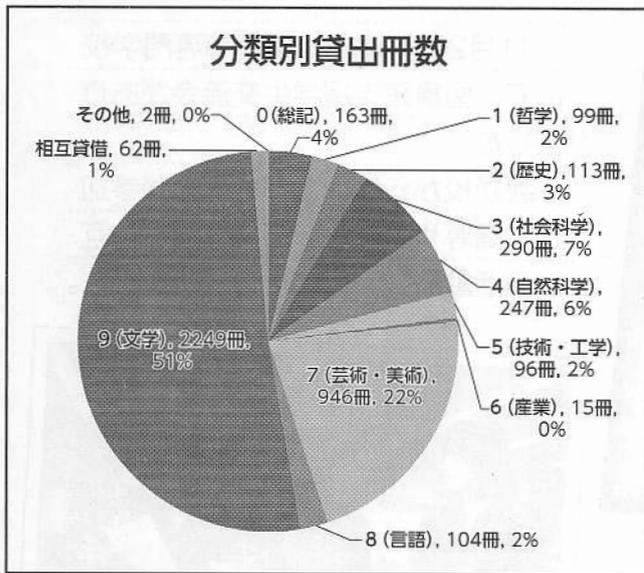
ブックハンティング
に行ってきました。

期末テスト最終日、津山ブックセンターへ図書部員がブックハンティングに行ってきました。今年の十六夜祭の売り上げは少なかったため、あまり多くの本は買いませんでしたが、それぞれ自分の読みたい本をわいわいと選びました。3学期には図書室に並ぶので、みなさんぜひ借りに来てくださいね！

〈購入した本〉

- 不思議系上司の攻略法
- 半熟作家と文学少女な編集者
- バカが全裸でやってくる
- 死亡フラグが立ちました！
- カエルの子は

など22冊



館外貸出図書ベスト10

1	県民性マンガうちのトコでは Uchitoko	もぐら 著	13回
2	Slamdunk #13、14	井上 雄彦 著	12回
3	Slamdunk #11、12、15	井上 雄彦 著	11回
	うちのトコでは 2	もぐら 著	
6	植物図鑑	有川 浩 著	10回
	Slamdunk #7、9、10、16、17	井上 雄彦 著	
	マンガで分かる心療内科 2	ゆうき ゆう 原作	
	県庁おもてなし課	有川 浩 著	
10	神様のカルテ	夏川 草介 著	9回
	Slamdunk #6、8、18、19、20、23	井上 雄彦 著	
	ちはやぶる 12	末次 由紀 著	
	傾 (カブキ) 物語 (講談社BOX)	西尾 維新 著	

館外貸出作家ベスト10

1	井上 雄彦	318回
2	有川 浩	129回
3	西尾 維新	119回
4	手塚 治虫	99回
5	あさの あつこ	85回
6	電騎士07	80回
7	鎌池 和馬	71回
8	雪乃 紗衣	60回
9	東野 圭吾	58回
10	末次 由紀	47回

編集後記

この冬は、本をたくさん読みました。決して宿題をしていなかったわけではありません。かと言って終わってもいませんでしたが、気にしません。

さて、ライブラリーはいかがでしたか。今回はページ数が増え、部員のオススメ本の紹介も増え、そんな増えたページ1枚が落ちないかひやひやしています。

津高は日々やまりの宿題を課せられるので、なかなか読書をする機会がありませんが、勉強の合間にお気に入りの本で一息つくのもいいですね。

第57回青少年 読書感想文 岡山県コンクール

入選...二年 小椋 美紅
二年 林原 愛

佳作...二年 寒竹 恭子
二年 奥田 恵理
二年 黒瀬 晴香
二年 黒瀬 颯太
二年 日笠比咲子
二年 山本 彩加